５．モデル教案（略案）について

ここでは、p.11 から p.13 までのモデルカリキュラムに沿って、プレスクールの授業を想定したモデル教案（略案）をご紹介します。本モデル教案のコンセプトと、実際の授業に活用するためのポイントを以下にまとめます。

«モデル教案の見方»

1. 本モデル教案では、対象となる子どもの日本語能力をほぼゼロレベルと設定しています。日本で生活していて、日常的に見聞きする表現はわかっても、家庭で使ったり体系的に学んだりした経験はない子どもであると想定しています。

2. １の想定のため、指導者の発話量を極力少なく、やさしい日本語にしています。しかし、この日本語レベルでも難しい子どもたちも多いと思われます。その場合は、視覚的に理解できる教材やジェスチャー等で教室活動を進めていく必要があります。モデル教案の流れをわかりやすくするために、あえて指導者の発話を書いていますので、活用する際は、実際の子どもたちの日本語レベルに合わせて語彙や表現をコントロールしてください。

3. 「到達目標」「覚える言葉や表現」「目安時間」にある①、②、③…は対応しています。つまり、「到達目標①」のために「覚える言葉や表現①」を指導し、そのための活動内容と所要時間が「目安時間①」に書かれています。例えば、ユニット１の「到達目標①あいさつができる」ようになるために、「覚える言葉や表現①　おはようございます　／　こんにちは　／　こんばんは　／　さようなら」を指導します。その指導内容が「目安時間①」に該当するところに書かれています。

4. 本モデル教案は、汎用性があり、地域差がないことから、言語形式は「です・ます」体を採用しています。しかし、現場によっては異なる言語形式を使用している場合もあると思います。子どもへの指示の際も「～ましょう」だったり「～てください」だったり、状況は様々だと考えられます。また、標準語よりも地域で使われている方言の方が重要な場合もあるでしょう。子どもたちの日本語レベルや環境に合わせて、モデル教案で使用している言語形式や表現は柔軟に変更してください。ただし、子どもたちが混乱するのを防ぐために、１つのプレスクールの期間中は同じ言語形式に統一することをお勧めします。担当するスタッフによって変わったりしないように留意しましょう。

«モデル教案の使い方»

１．モデル教案は略案です。授業の前には、さらに詳しい教案「細案」を書きます。

教案には様々な書き方があり、決まりはありません。指導者が自分にとって一番使いやすい形のものを作成しましょう。ただし、初めてプレスクールを担当する方は、自分の発言と、想定される子どもの発言、板書の内容、教材を使うタイミング、注意点、他のスタッフの行動等をすべて書き込んだ「細案」を必ず用意しましょう。細案がないと、子どもたちにとって難しい日本語を使ってしまったり、指導者の発言が多くなりすぎたり、時間配分がうまくいかなかったりします。細案を作成したら、子どもたちの日本語レベルに合った語彙や表現を使用しているか、日本語教育の専門家にチェックしてもらいましょう。

２．ユニット名はその回の目的です。目的に合った到達目標を考えます。

例えば、ユニット１の目的は「友達になろう」です。そのために、「①あいさつ」をしたり、「③自分の名前」を答えたりできるようになることが到達目標です。また、教室活動に仲良く参加していくために、「②先生の指示を聞いて、行動できる」ようになることも必要です。目的に合った具体的な到達目標を考えましょう。子どもたちの日本語レベル等に合わせて、到達目標を減らしたり、１ユニットを２回に分けて行ったり、あるいは一部の到達目標を、別のユニットに組み込んだりしてもよいです。なお、通常６０分程度の授業のうち、最初と最後の１０～１５分は各教室のルーティン活動（朝の会や宿題チェック、片づけなど）があると考え、本モデル教案では、１ユニット当たり45～50 分程度の教室活動を想定しています。

３．到達目標別に、学習する言葉や表現、教室活動（練習）を考えます。

例えば、ユニット１では①～④の到達目標に応じた練習や活動例を ア から オ で示しています。原則として、ア から オ へやさしいものから難しいものへと並べています。しかし、すべての練習や活動をしなければいけないわけではありません。子どもたちの特性や、地域、学習環境に応じて取捨選択したり、順番を変えたり、他の練習や活動を考えたりしてください。子どもたちの日本語レベルやその日の様子に合わせて、柔軟に対応できるように、様々な活動を準備しておくと便利です。例えば、子どもたちがとても緊張しているようなら、初めにゲームやクイズをしてリラックスさせた方がよいかもしれません。「その他の活動例」も参考にしてください。

なお、モデル教案はできるだけ、新出語彙・表現の導入や指導→口頭や応答練習→体験的な活動の順になるように作成しています。新出語彙や表現は前半で導入し、教えていない言葉が、後半の活動で突然出てきたりしないようにすることが大切です。

ユニット１　友達になろう

T＝指導者　　S＝子ども

到達目標	①あいさつができる ②先生の指示を聞いて、学校生活で必要となる基本的な行動ができる ③自分の名前が読める 　自分の名前を聞かれて、答えることができる ④簡単な応答ができる	
覚える言葉や表現	①　おはようございます　／　こんにちは　／　こんばんは　／　さようなら ②　立ちましょう　／　座りましょう　／　手を挙げましょう　／　書きましょう　／　読みましょう　／　やめましょう　（または、「～てください」） ③　（わたしは　／　ぼくは）　自分の名前　です。 ④　はい　／　いいえ　／　わかりません	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①５分 **あいさつ**	T：おはようございます。 S：おはようございます。 練習　ア. 絵カードを見せながら、それぞれのあいさつを口頭で練習する。 イ. 立って、おじぎをしてあいさつする。 ウ. 絵カードで場面を見せながら、T と S、S 同士で立ってあいさつをする。	絵カード ・おはようございます ・こんにちは ・こんばんは ・さようなら
②20 分 **基本的な行動**	※①で立ったり座ったりしているので、その流れで導入。 T：立ちましょう。 S：[その場で立つ] ※実際に動いてもらい、意味を紹介する。 ※T が使う表現なので、S は口頭練習をしなくてもよい。聞いて意味を理解し、反応できるようにする。 練習　ア. T が指示を出して動くゲーム。 イ. いす取りゲーム：音楽を小さく流し、T が「座りましょう」と言ったら、座る。いすに座れなかった S が、次に指示を出してもいい。	絵カード ・立ちます　・座ります ・手を挙げます ・書きます　・読みます ・やめます 初めに、T と他のスタッフがやってみせて、ルールを理解させる。

③20 分 **名前**	[黒板に縦書きと横書きで書かれた S の名札を、できるだけバラバラに貼る。T の名札も入れておく。練習では T が初めに見本を見せる] 練習　ア. 黒板から自分の名札を探す。 イ. 名札を持って、自分の名前を言う。 「(わたしは) _____です」 ウ. T に名前を聞かれて、答える。 「お名前は」「(わたしは) _____です」 エ. みんなの名前を覚えたかクイズをする。 オ. 縦書きと横書きの練習をする。 →ひとつ書いてみて、残りは宿題にする。	マグネットシートで作った名札（S の人数分＋T） 板書 「(わたしは) _____です ※「わたしは」は子どもの日本語レベルに合わせて導入する。 名前を練習するワークシート
④５分 **応答**	今日使った絵カードを見せながら、S に「わかりますか」と聞いて、「はい」「いいえ」「わかりません」を導入する。今日勉強した言葉や表現の復習を兼ねて練習する。	絵カード ・わかります
その他の活動例	・「あいさつ」についての絵本の読み聞かせをする。可能であれば多言語でする。 ・自分の国のあいさつを紹介する。 ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」など、他のあいさつを絵カードなどで確認して、どんな時に使うかなど話す。 ・家族の名前をみんなに紹介する。 ・自分の国の言語でも名前を書いて、みんなに紹介する。	
宿題の例	・あいさつを復習するワークシート（イラストとあいさつを線で結ぶ、など） ・鉛筆で線を描く練習（ユニット２の予習も兼ねる） 例：「新版いっしょにまなぼう　みえこさんのにほんご　れんしゅうちょう１」p3-p5 ・自分の名前を練習するワークシート	
備考	教室での指示表現として、「～ましょう」と「～てください」のどちらを（または両方）導入するか、名前をひらがなとカタカナのどちらの表記にするかは、地域や通学予定の学校の実態、子どもの日本語レベルを考慮して決める。	
参考教材	「新版いっしょにまなぼう　みえこさんのにほんご」(2007), （公財）三重県国際交流財団（以下、教案では MIEF と表記）, p1-p16 「こどもにほんご宝島」(2009), アスク出版社, p12-15, 「第１話　ぼくの・わたしの名前」 「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p1-p11	

ユニット２　いろいろ書いて／描いてみよう

Ｔ＝指導者　　Ｓ＝子ども

到達目標	①基本的な筆記用具の名前がわかる ②鉛筆を正しく持つことができる 　鉛筆で書いたり、消しゴムで消したりすることができる ③いろいろな文房具の名前がわかる ④いろいろな文房具を正しく使える	
覚える言葉や表現	①　筆箱　／　鉛筆　／　消しゴム　／　ノート　／　下敷き　／　定規 ②　書きます　／　消します ③　のり　／　色鉛筆（クレヨン、クーピー等）　／　はさみ　／　鉛筆削り	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①10 分 **筆記用具の名前**	Ｔ：[筆箱を見せる]　これは何ですか。 Ｓ：筆箱です。 練習　ア. 実物を見せながら、それぞれの単語を口頭で繰り返し練習する。 イ. 袋または箱に実物を入れる。手を入れて、触ったものが何か当てるゲームをする。 ウ. 応答練習「何ですか」「鉛筆です」 エ. 否定を入れた応答練習 「（これは）鉛筆ですか」「ちがいます」	以下の実物または絵カード等 ・筆箱　・鉛筆 ・消しゴム　・ノート ・下敷き　・定規 ※必要に応じて、上記の名前をひらがなで板書する。
②20 分 **鉛筆を正しく使う**	Ｔ：[黒板に字や線を書きながら]書きます。 Ｓ：書きます。 Ｔ：[黒板の字や線を消しながら]消します。 Ｓ：消します。 Ｔ：[鉛筆でノートに何か書きながら]鉛筆で… Ｓ：書きます。 Ｔ：[消しゴムで消しながら]消しゴムで… Ｓ：消します。 練習　ア. Ｔが見本を見せて、鉛筆を正しく持つ。 イ. 練習プリントの線や図形をなぞる。	板書、絵カード かきます　けします 線、曲線、文字や自分の名前をなぞるための練習プリント

	ウ. 書いたものをきれいに消しゴムで消す。 エ. 文字や自分の名前をなぞる。 オ. 文字や自分の名前を書く。	
③5 分 **文房具の名前**	T : [のりを見せる]　これは何ですか。 S : のりです。 練習　ア. 実物を見せながら、それぞれの単語を口頭で繰り返し練習する。 イ. 色鉛筆については、よく使う色を紹介し、口頭練習をする。	以下の実物または絵カードなど ・のり ・色鉛筆（クレヨン等） ・はさみ ・鉛筆削り 板書（色の名前）
④15 分 **文房具を使う**	【活動　いろいろな文房具を使ってみる】 子どもたちの様子を見て、以下のような活動を行う。楽しく文房具に親しめるようにする。 ・定規を使って、線や三角形、四角形などを描く。 ・描いた線や図形をきれいに消す。 ・赤鉛筆で○を描く。 ・色鉛筆やクレヨンで図形や絵に色をぬる。 ・はさみで図形や絵を切り抜く。 ・画用紙に折り紙や切り抜いた図形などをのりで貼る。 ・鉛筆削りで鉛筆を削る。	図形や塗り絵のワークシート、折り紙、画用紙、色紙、色鉛筆、クレヨン等
宿題の例	・鉛筆で線を描いたり、名前を書いたりする練習ワークシート ・塗り絵や図形をなぞるワークシート	
備考	・はさみや鉛筆削りは危険がないように、正しく扱うことを理解させる。 ・名前書き用のペン（学校指定）の使い方（名前を書く練習）を追加してもよい。	
参考教材	「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p166, 活動例４<鉛筆の持ち方・運筆> 「みえこさんのにほんご　れんしゅうちょう１」(2011), MIEF, p3-6 「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい１ねんせい」(2016), 愛知県, p19-22 １年生の国語教科書等に掲載されている「えんぴつのもちかた」	
保護者の方へ伝えること	・鉛筆の濃さなど、学校によって指定の文房具があるため、どんな文房具が必要か確認した上で、購入できる場所などを紹介する。 ・「連絡帳」の使い方や注意点を説明し、保護者から子どもにも説明してもらう。	

ユニット３　学校へ行こう【持ち物編】

Ｔ＝指導者　　Ｓ＝子ども

到達目標	①ランドセルについて知る ②学校に持って行く物の名前がわかる ③学校に持って行ってはいけない物がわかり、学校へ行く準備ができる	
覚える言葉や表現	①　（学校へ）行きます　／ランドセル ②　（～に）入れます　／　帽子　／　上靴　／　上靴の袋　／　水筒　／　教科書　／　ノート　／　筆箱　／　ハンカチ　／　ティシュ ③　いい　／　だめ	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①5 分 **ランドセル**	Ｔ：学校へ行きます。 　[ランドセルを見せながら]　これは何ですか。 Ｓ：ランドセルです。 Ｔ：ランドセルをしょって、学校へ行きます。 練習　実物があれば、Ｔが空（から）のランドセルをしょってみせる。Ｓもしょってみる。 　※「しょう」という言葉は特に説明しない。 　　実際にしょって、どんな感じか体験させる。	板書、絵カード いきます 実物または写真、絵カード ・ランドセル ・ランドセルをしょっている子ども
②10 分 **持ち物の名前**	Ｔ：[ランドセルを開けて、中に物を入れながら] ランドセルにノートを入れます。入れます。言いましょう。 Ｓ：入れます。 練習　いれますの板書、または絵カードの前に、「持って行く物」の絵カードを貼り、「ランドセルに○○を入れます」と口頭練習をする。	板書、絵カード いれます 実物または写真、絵カード ☆持って行く物(例) ・ランドセル　・帽子 ・上靴　・上靴の袋 ・水筒（水か茶）・教科書 ・ノート　・筆箱 ・ハンカチ　・ティッシュ
③30 分 **学校へ行く準備**	【活動　学校へ持って行く物を選ぶ】 ・黒板に持って行く物と持って行かない物の絵カードを混ぜて貼る。 ・Ｓにランドセルの絵が描かれたワークシートを配布し、ランドセルに入れるものを考えさせる。　ワークシートに絵を描き込むか、シールを貼る。 　※ランドセル等は実物を使って、実際にランドセルに	☆持って行かない物(例) ・スマートフォン 　（携帯電話）

	入れさせてもよい。 ※ペア、もしくはグループワークで行ってもいい。 T：何を入れましたか。 S：ノートと時計を入れました。 T：ノートはいいです。 時計はだめです。 ジュースはいいですか。だめですか。 S：だめです。 練習　ア. 他のものについても、ひとつずつ「○」「×」で持って行くもの、持って行かないものを確認する。「○」「×」を貼った机の上に、物を置いていく。 イ. もう 1 度、ランドセルに必要なものをきちんと入れてみる。	・ポータブルゲーム機 ・時計　・ぬいぐるみ ・食べ物　・ジュース ・ペット 「○」「×」のペープサート 板書　いいです だめです
④５分 **まとめ**	T：ランドセルに全部入れました。 ランドセルをしょって、学校へ行きます。 [いっぱいになったランドセルをしょってみる。 帽子もかぶって、学校に行く雰囲気を味わう]	
その他の活動例	・最後にランドセルから物を出して、物の名前の再確認と、「出します」を教える。 ・「～てもいいです」「～てはいけません」の導入と練習をする。	
宿題の例	持ち物リストを多言語表記した説明書等を保護者と読む。	
備考	・子どもの日本語レベルに応じて、持ち物の名前の読み書きを教えてもいいが、この教案では、持って行っていいもの、だめなものが認識できることを目標とした。 ・地域や学校によって持ち物のきまりは違うため、子どもたちが通学予定の学校や教育委員会に事前に確認しておく。	
参考教材	「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p180-p183, 活動例 16「もちもの」シート 「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい１ねんせい」(2016), 愛知県, p7-8 「がっこうたんけんしょうがっこうだいずかん」(2016), 金の星社, p28-p29	
保護者の方へ伝えること	体操服も含めて、持ち物にはすべて名前を書くが、近年見えるところには名前を付けないようにしている学校もあるので確認する。	

ユニット４　　学校へ行こう【交通ルール編】

T＝指導者　S＝子ども

到達目標	①自分が通う学校がわかる ②信号の意味がわかる ③横断歩道の渡り方がわかる	
覚える言葉や表現	①　＿＿＿＿＿小学校（通学予定の学校名）　／　（～へ）行きます ②　信号　／　赤　／　青　／　黄色　／　（横断歩道を）渡ります／　止まります　危ない ③　右　／　左　／　見ます	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①10 分 **学校の名前**	T：これは小学校です。 みなさんは４月から小学校へ行きます。 小学校の名前を知っていますか。 S：○○○小学校です。 練習　ア．子どもたちが通学予定の学校名を紹介する。 イ．学校名を口頭練習する。	絵カード ・学校　・行きます 学校の位置がわかる周辺の地図など
②20 分 **信号の意味**	T：これは何ですか。 S：信号です。 T：何色ですか。 S：青です。 練習　色の名前を口頭練習する。 T：信号が青です。渡ります。 信号が赤です。どうしますか。 S：渡りません（歩きません／行きません）。 T：そうですね。あぶないです。止まります。 練習　ア．赤、黄色、青の色紙（または信号の絵カード）をランダムに見せて、「渡ります」「止まります」を言う。	絵カード ・信号（歩行者用、車用） 板書 あか　あお　きいろ 絵カード ・横断歩道 ・渡ります（歩きます） ・止まります　・危ない 板書 わたります　とまります あぶないです

③20 分 **横断歩道の渡り方**	イ. 黄色の時はどうしたらいいか考える。 T：（横断歩道を）渡ります。 右を見ます。左を見ます。もう一度、右を見ます。 練習　ア. T が「右・左・右」を見て、手を挙げて横断歩道を渡るところを見せる。S も同じようにする。 イ. T が信号の絵カードを示し、その信号に合わせて S が横断歩道を渡ったり、止まったりする。 ウ. 外に出て、実際の横断歩道を渡る。	板書、絵カード みぎ　ひだり　みます 下に置いて、実際に渡れるくらいの横断歩道を描いた模造紙
その他の活動例	・小学校で使う「登校」「下校」「登下校」等の言葉を紹介する。 ・口語でよく使われる「危ない！」「止まれ！」等の聞き取りをする。 ・交通ルールに関する絵本の読み聞かせをしたり、ビデオを見たりする。可能であれば多言語で行う。 ・登下校時の安全に関わる標識を紹介する。	
宿題の例	・色の無い信号のイラストに色を塗る。 ・家から通学予定の小学校まで、実際に親子で歩いてみる。	
備考	通学時のグループについては、「通学班」、「通学団」、「縦割り班」等、各地で名称が異なることに留意する。子どもに教える場合には、当該学区の名称で伝える。	
参考教材	「新版いっしょにまなぼう　みえこさんのにほんご」(2007), MIEF, p51-52 「こどもにほんご宝島」(2009), アスク出版社, p68-69 「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p22-23	
保護者の方へ伝えること	・原則として歩いて登校しなければいけない。雨の日でも歩いて登校させる。 ・学校の決まりや状況により、集団登校をする場合がある。集団登校するグループは「通学班」「通学団」「縦割り班」等と呼ばれる。欠席する場合は、学校や集団登校のグループへ連絡しなければならない。 ・通学路は決められているので、事前に学校に確認する。入学までに子どもと一緒に実際の通学路を歩いて確認するとよい。決められた通学路を使わないと、事故の際に保険が適用されない場合があるので、注意する。 ・一般的に、通学路には保護者が立って子どもの安全を見守ることになっている。これは保護者が順番に担当する。	

ユニット５　　学校を探検しよう

Ｔ＝指導者　Ｓ＝子ども

到達目標	①学校の中の場所の名前がわかる ②トイレの使い方がわかる
覚える言葉や表現	①　教室　／　保健室　／　図書室　／　音楽室　／　職員室　／　体育館 ／　運動場　／　勉強します　／（保健室に）行きます　／　（本を）読みます ／　歌います　／（先生が）仕事をします・（先生が）います　／　運動します ②　トイレ／　（トイレに）行ってもいいですか　／　座ります　／　流します

目安時間	内　　容	教材・板書など
①30 分 **場所の名前**	[ビデオや写真を見せながら] Ｔ：これは小学校です。色々な部屋があります。 ここで何をしますか。 Ｓ：勉強します。 Ｔ：勉強します。 教室です。教室で勉強します。 ※同様に各部屋とそこですることを確認する。 保健室　→　頭が痛いです。けがをしました。（※） 保健室に行きます。 ※「頭が痛い」「けがをした」「具合が悪い」等の絵カードやジェスチャーで状況を伝える。これらの表現は言葉として教えなくてもいい。 図書室　→　本を読みます 音楽室　→　歌を歌います 職員室　→　先生が仕事をします・先生がいます 体育館、運動場　→　運動します 練習　場所の絵カードと動詞の絵カードを使って、カード合わせ（神経衰弱でも良い）をする。	小学校の中がわかるビデオや写真、イラスト等 ビデオ、写真、絵カード等 ・教室　・保健室 ・図書室　・音楽室 ・職員室　・体育館 ・運動場 板書、絵カード べんきょうします いきます　よみます うたいます しごとをします うんどうします
③20 分 **トイレの使い方**	Ｔ：[トイレの写真を見せながら]これは何ですか。 Ｓ：トイレです。 Ｔ：教室で勉強しています。でも、トイレに行きたいです。どうしますか。先生に何と言いますか。 Ｓ：先生、トイレに行ってもいいですか。	写真または絵カード ・和式と洋式のトイレ ※ジェスチャーやイラストで状況を説明する。

	T： いいですよ。 練習　「トイレに行ってもいいですか」を口頭練習する。 【活動　トイレの使い方】 例：スリッパに履き替える　→　便座に座る →　用を足す　→　紙でふく（使う紙の量も気をつける）　→　紙を便器の中に入れる　→　便器の水を流す ※地域や場所によって使い方に違いがあるので注意する。 ※言葉ではなく、一連の行動を理解させる。 ※可能であれば、実際のトイレを使ってみる。	トイレ（和式と洋式）の使い方がわかるイラストや絵本
その他の活動例	・実際に通学予定の小学校を訪問し、どこに何があるかを確認する。また、校内でかくれんぼや鬼ごっこ等のゲームをして、学校に親しむ。これらは保護者と一緒に参加できると良い。 ・廊下は走らないこと、右側を歩くこと、などの決まり事やロッカーや下駄箱の使い方を教える。	
宿題の例	・教室の写真（イラスト）と名前を線で結ぶワークシート ・和式トイレを使ったことがないようであれば、和式トイレがある場所を紹介し、親子で体験する。	
備考	・学校や公共施設では、まだ和式トイレが多い場合もある。 ・子どもの母国のトイレと日本のトイレは使い方が違うことがあるので注意する。	
参考教材	「がっこうたんけん　しょうがっこう　だいずかん」（2016），WILL こども知育研究所，p6-13,16-25,44-45 「新版いっしょにまなぼう　みえこさんのにほんご」（2007），MIEF，p20,32-34 「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p13	
保護者の方へ伝えること	・原則として、トイレは休み時間に行くべきだが、授業中に行きたくなった場合は絶対に我慢しないようにする。みんなの前で言うのが恥ずかしい場合は、先生を呼んでそっと伝えるようにする。 ・入学前までに家庭でのトイレトレーニングをしっかりする。紙の始末や水の流し方等を子どもに教える。 ・学校ではトイレ掃除も子どもたちがする。	

ユニット６　給食を食べよう

Ｔ＝指導者　　Ｓ＝子ども

到達目標	①給食について知る ②給食で使う物がわかる ③給食の準備がわかる ④給食のあいさつがわかる ⑤給食の後片付けがわかる	
覚える言葉や表現	①　給食　／　食べます ②　エプロン　／　マスク　／　帽子　／　給食袋　／　おぼん　／　箸　／　お椀　／　お皿 ③　待ちます　／　並びます　／　座ります ④　いただきます　／　ごちそうさまでした	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①5 分 **給食について**	Ｔ：これから給食の時間です。 [給食風景のビデオを視聴する。または絵カードや写真を見せる。給食の一例の写真を見せる] Ｔ：給食です。学校で給食を食べます。	給食の様子がわかるビデオ、写真または絵カード 板書、絵カード たべます
②10 分 **給食で使う物**	Ｔ：これは何ですか。 Ｓ：エプロンです。 練習　給食当番が使う物を紹介して、口頭練習をする。 Ｔ：これは何ですか。 Ｓ：おぼんです。 練習　給食で使う食器類を紹介して、口頭練習をする。	実物 ・エプロン　・マスク ・帽子　・給食袋　・箸 ・おぼん　・お椀　・お皿 ※黒板には写真か絵カードを掲示する。
③20 分 **給食のルール**	Ｔ：[ビデオや写真を見せながら] マスクをします。待ちます。並びます。座ります。 【活動　給食の準備をする】 ・給食当番が、お皿やお椀に食べ物を入れること、当番以外の子は１種類ずつ、おぼんに取っていくこと等、Ｔが実際にやって見せる。	板書、絵カード まちます　ならびます すわります 実物または写真、絵カード ・おぼんと食器類 ・おぼんにお椀やお皿の

	・給食当番をするＳ（グループ）を決めて、エプロン、マスク、帽子を身に着ける。当番のＳ（グループ）は実際の食器におかずや果物の絵カードを入れる。 ・その他の Ｓ は、おぼんを持って並び、自分の給食を取って運ぶ。	置き方を描いた絵 ・給食に出るおかず、牛乳、ごはん、果物等の絵カード（※裏面に「ごちそうさまでした」と書いておく）
④5 分 **給食のあいさつ**	Ｔ：いただきます。 Ｓ：いただきます。 [食べるふりをする。食べた物は、カードを裏返す。 裏返すと、「ごちそうさまでした」が書いてある] Ｔ：ごちそうさまでした。 Ｓ：ごちそうさまでした。	板書 いただきます 板書 ごちそうさまでした
⑤10 分 **給食の後片付け**	【活動　食器を片付ける】 Ｔ：食べました。片付けましょう。 ※Ｔがやって見せて、ルールを理解させる。	
その他の活動例	・給食でよく出るメニューから、飲み物、食べ物の名前を導入して、クイズをする。 ・給食のメニューや素材をテーマに、「好きです」「苦手(嫌い)です」「飲みます」「食べます」の表現を導入し、質問や応答の練習をする。 ・「おいしい」「あまい」等の味覚表現や、「熱い」「冷たい」の表現に触れる。 ・エプロンのたたみ方を練習する。	
宿題の例	・おかずや果物、野菜等の塗り絵をする。 ・イラストや写真を「おかず」、「果物」、「野菜」などにグループ分けする。 ・給食について紹介したワークシートや、子ども用と保護者用の実際のメニュー表を見ながら、親子で話をする。	
備考	給食時のルール（マスクやおしゃべり等）は学校によって異なるため事前に確認する。	
参考教材	ちびむすドリル　幼児の学習素材館（https://happylilac.net/kisetsu-sozai.html） ・置き換え「記号を描き入れよう」食べもの編・くだもの編・やさい編 ・やさしいお絵描き教材（線なぞり）野菜・果物 「ひと目でわかる！　教室で使うみんなのことば　学校の一日」(2017), 文研出版, p24-31	
保護者の方へ伝えること	・宗教、信条や体質により食べられない物がある場合は、必ず事前に先生に伝える。 ・朝ごはんは毎日きちんと食べる。学校ではおやつ等を食べてはいけない。 ・給食の配膳をするので、爪は短く切り清潔に保つようにする。	

ユニット７　掃除をしよう

Ｔ＝指導者　　Ｓ＝子ども

到達目標	①掃除道具の名前がわかる ②掃除道具の使い方がわかる	
覚える言葉や表現	①　掃除　／　ぞうきん　／　バケツ　／　ほうき　／　ちりとり　／　ごみ箱 ②　拭きます　／　汚いです　／　きれいです　／　掃きます　／　捨てます	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①10 分 **掃除道具の名前**	[掃除風景のビデオや写真、絵カード等を見せながら] Ｔ：何をしていますか。 Ｓ：掃除をしています。 Ｔ：掃除をしています。学校ではみんなで掃除をします。 　これは掃除の時間です。 Ｔ：これは何ですか。 Ｓ：ごみ箱です。 練習　掃除道具を紹介して、口頭練習をする。	掃除の様子がわかるビデオ、写真、絵カード等 実物 ・雑巾　　・バケツ ・ほうき　・ちりとり ・ごみ箱 ※黒板には写真か絵カードを掲示する。
②40 分 **掃除道具の使い方**	Ｔ：みんなで掃除をします。これは雑巾です。 　（机が）汚いです。拭きます。きれいです。 Ｓ：雑巾です。汚いです。拭きます。きれいです。 練習　絵カードで口頭練習 【活動　雑巾を使う】 Ｔが動作を繰り返しながら手順を見せる。 例　雑巾を半分に折る　→　バケツに入れて濡らす 　→　雑巾を絞る　→　机の上を拭く ※初めは、雑巾を濡らさない状態で練習をする。慣れてきたら、実際にバケツの水で濡らして練習する。 Ｔ：（机を）拭きます。※自分の机の上を拭くように促す。 Ｓ：拭きます。 Ｔ：きれいになりましたね。	板書、絵カード きたないです　ふきます きれいです

	T：これはほうきです。ちりとりです。ごみ箱です。 （床が）汚いです。掃きます。きれいです。 （ごみを）ごみ箱に　捨てます。 【活動　ほうき、ちりとり、ごみ箱を使う】 Tが動作を繰り返しながら手順を見せる。 少しずつ前に進むこと、ほうきを振り上げない、穂先はやさしく上げ下げして使う等、注意点を押さえる。 T：掃除が終わりました。片付けましょう。 [みんなで道具を所定の場所に片付けたり、汚れた雑巾を洗って干したりする]	板書 はきます　すてます
その他の活動例	・「机を運ぶ（後ろに下げる、前に出す）」活動や必要な表現を教える。 ・雑巾の使い方で、「濡らす」「絞る」「折る」などの関連表現を追加する。 ・「拭いて（ください）」「掃いて（ください）」等の指示語を追加して、Tの指示に従って行動できるかゲームをする。 ・廊下や他の教室も掃除する。	
宿題の例	・掃除道具のイラストと名前が書かれたワークシートを渡して線で結ぶ。または名前の書き取りをする。 ・家の中にどんな掃除道具があるか、保護者と探してくる。 ・自宅で掃除のお手伝いをする。	
備考	三重県では物を持ち上げて運ぶ際には「つる」という表現をよく使う。「机をつる」という表現を紹介してもよい。	
参考教材	「ひと目でわかる！　教室で使うみんなのことば　学校の一日」(2017)，文研出版，p36-37	
保護者の方へ伝えること	・日本の学校では、子どもたちが自分たちの教室や廊下、トイレを掃除する。自分が汚したものは自分できれいにするという考え方がある。 ・雑巾は各自で準備しなければならない。古タオルなどは不可の場合が多いので、学校に確認する。100円ショップや近所のスーパーなど、雑巾を購入できる場所を紹介するとよい。	

ユニット８　元気に動こう

Ｔ＝指導者　　Ｓ＝子ども

到達目標	①体育について知る ②体育の時間に着る服、用意する物がわかる ③体育時など、集団行動において使う言葉がわかる ④ラジオ体操を体験する	
覚える言葉や表現	①　体育 ②　使います　／　体操服　／　赤白帽　／　運動靴　／　体育シューズ ③　並びます　／　前（へ）ならえ　／　小さく前（へ）ならえ 　三角座り（体育座り）／　休め ④　体操をします　／　ラジオ体操	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①10 分 **体育について**	Ｔ：今日は体育の時間です。 　[体育のいろいろな運動の写真などを見せる] Ｔ：この時間は体育です。体育、言いましょう。 Ｓ：体育。 Ｔ：体育が好きですか。嫌いですか。 Ｓ：好きです。　／　嫌いです。 練習　学校の体育でする運動の写真やイラストを見せて、知っているか、好きか嫌いかなどの質問と応答の練習をする。	体育でする運動の写真または絵カード 板書 たいいく すきです　きらいです
②10 分 **体育で着るもの等**	Ｔ：[実物を見せながら]体育の時間に使います。 　体操服。言いましょう。 Ｓ：体操服。 練習　他の物についても、同様に練習する。	板書、実物または写真等 たいそうふく あかしろぼう うんどうぐつ たいいくしゅーず
③20 分 **体育で使う言葉**	Ｔ：立ちます。 Ｓ：[Ｔがその場で立つように促す] Ｔ：並びます。	板書、絵カード たちます　ならびます

	S：[T が一列に並ぶように促す] 練習　以下の動作についても、実際に動いて練習する。 ※一番前の子どもは腰に手を当てる。 前（へ）ならえ　／　小さく前（へ）ならえ 三角座り（体育座り）／　休め 【活動　集団で動く】 ア. T の指示に従って、S が全員動く。 イ. S の一人が指示をして、その他の S が動く。	まえへならへ さんかくずわり やすめ ※表現は地域によって異なる場合がある。
④10 分	T：みんなで体操をします。一緒にしましょう。 【活動　ラジオ体操】 初めに T が動いて見せる（または動画を見せる）。 次に全員で体操する。	動画「ラジオ体操」
その他の活動例	・「使います」の代わりに、「着ます」「履きます」を導入して練習する。 ・実際の体育館や運動場に行き、いろいろな体育道具に触れてみる。 ・運動会について紹介する。運動会でよくある競技を体験してみる。 ・得意なスポーツや、母国で人気のスポーツなどについて話す。	
宿題の例	・動画を見て、家族とラジオ体操をやってみる。	
備考	・地域によって、同じ道具であっても名称が違ったり、使う言葉や表現が違ったりすると思われるので、学校や地域の実情に合わせて導入する言葉を選ぶ。 ・余裕があれば「水着」「水泳帽」などについても紹介する。	
参考教材	「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい１ねんせい」(2016), 愛知県, p7-8 「ひと目でわかる！　教室で使うみんなのことば　学校の一日」(2017), 文研出版, p24-31 NHK どーがレージ　https://www.nhk.or.jp/d-garage-mov/movie/68-1.html (2020-2-14 参照)	
保護者の方へ伝えること	・体育の時は体操服を必ず持って行く。体操服を持って行かないと、「休み」とみなされることがある。 ・学校では子どもは自分で着替えをしなければならないので、家庭でも着替えがスムーズにできるように練習しておく。 ・プール授業のある季節には、シラミが流行することがある。シラミになった場合の対処方法（専用のシャンプーを薬局で購入する等）や注意点を伝える。	

ユニット９　体の名前を覚えよう

T＝指導者　S＝子ども

到達目標	①　体の部位の名前がわかる ②　体の調子を伝えることができる ③　自分の作品を発表できる
覚える言葉や表現	①　頭　／　肩　／　膝　／　手　／　目　／　耳　／　口　／　鼻　／　おなか　／　歯　／　眉(毛)　／　髪　／　顔 ②　痛いです ③　見てください　／　私の　顔　です

目安時間	内　　容	教材・板書など
①20 分 **体の名前**	[歌「♪あたまかたひざぽん」を歌う。歌いながら、T が動く。「ぽん」を「手」に替えて歌う]	歌の CD、動画など
	Ｔ：[頭を押さえながら]頭。 Ｓ：頭。	体の部位の板書、絵カード あたま　かた　ひざ　て め　みみ　くち　はな おなか　は　まゆげ かみ　かお
	導入　同様に歌に出てくる言葉を導入する。 その後、追加で「目」「耳」「口」「鼻」「おなか」「歯」「眉（毛)」「髪」「顔」も導入する。 ※子どもの日本語レベルによって、導入する言葉の数は調整する。	
	練習　ア. T が体の部位を指し示して、名前を言う。S は T の真似をして言う。 イ. 名前を言わずに、T は体の部位を指し示す。S はその部位の名前を答える。 「何ですか」「耳です」 ウ. T は名前だけを言う。S はその名前の部位を指し示す。	※名前を言うタイミングと部位を指し示すタイミングがずれないように気をつける。
②10 分 **体の調子を伝える**	T：痛いです。頭が痛いです。おなかが痛いです。 歯が痛いです。言いましょう。 S：痛いです。頭が痛いです。おなかが痛いです。	絵カード ・頭が痛い　・歯が痛い ・おなかが痛い

	練習　ア. 他の体の部位の絵カードを使って、「○○が痛いです」と言う。 イ. 以下の応答練習をジェスチャーや絵カードを使って行う。 「どこが痛いですか」「おなかが痛いです」	板書　いたいです
③15 分 **自分の作品を発表する**	【活動　自分の顔を描く】 Ｔ：顔を描きます。 [鼻、口、眉(毛)、目、耳、頭、髪、と声に出しながら、絵を描いていく] Ｔ：見てください。私の顔です。 では、みんなも描きましょう。 Ｓ：[自分の顔を描く] 【活動　自分の絵を発表する】 Ｓ：見てください。私の顔です。 ※さらに、私の鼻です、私の口です、私の目です…と絵を指しながら言わせてもいい。	画用紙、クレヨン、色鉛筆等
④5 分 **復習(歌)**	[今日のまとめとして、歌「♪あたまかたひざぽん」をもう一度歌いながら動く]	
その他の活動例	2 人 1 組になり、T が体の部位の名前を言ったら、その部位を合わせる（例　T が「手」と言ったら、S と S は互いの手を合わせる）。	
宿題の例	体の部位のイラストと名前を線でつなぐワークシート	
備考	余裕があれば、「けがをしました」「血が出ました」「気持ちが悪いです」などの表現や、学校には保健室があり、具合が悪いときにはそこに行くことを教える。 教室内に部位の名称が書かれた人体のイラストや模型を置いておくと良い。	
参考教材	「ことばつかいかた絵じてん」(1998),三省堂	
保護者の方へ伝えること	・欠席、遅刻時は必ず事前に連絡する（学校によって連絡方法が違うので確認する）。 ・学校には保健室があり、応急処置などをしてもらえる。帰宅が必要となる場合は、一般的に学校から保護者に連絡があり、保護者が迎えに行く。 ・学校で流行しやすい、インフルエンザやシラミなどについての知識や対処方法。	

ユニット 10　お弁当を作ろう

T＝指導者　　S＝子ども

到達目標	①お弁当について知る ②お弁当によく入れるおかずや食べ物の名前を知る ③箸の持ち方がわかる	
覚える言葉や表現	①　遠足　／　お弁当 ②　おかずや食べ物の名前（ご飯・卵焼き・唐揚げ・サラダ・りんご・トマト等） 　好きです　／　嫌いです　／　お弁当箱 ③　箸　／　持ちます（使います）	
目安時間	内　　容	教材・板書など
①５分 **お弁当を知る**	[遠足の様子がわかる写真や絵カードを見せながら] T：学校には遠足があります 　遠足は、みんなで公園等に行きます。 　遠足のときは、給食がありません。 　お弁当を食べます。家からお弁当を持って行きます 　※必要に応じて、通訳に説明してもらう。	遠足やお弁当の写真、絵カード
②30 分 **食べ物の名前を知る**	[お弁当の写真かイラストを見せながら] T：これは私のお弁当です。これは何ですか。 S：トマトです。 T：好きですか。嫌いですか。 S：好きです。 　※おかずや果物等のカードを見せ、好きな食べ物の時に、「好きです」と言って手を挙げさせる。 【活動　お弁当を作る】 　T：お弁当を作ります。これはお弁当箱です。 　　お弁当箱に…ご飯、唐揚げ、サラダ…。 　[黒板に空のお弁当箱の絵を貼り、その上に、ご飯、唐揚げ、サラダ等の絵カードを貼ってお弁当を作る] 　T：お弁当ができました。 　　みんなも、お弁当を作りましょう。 　[お弁当箱と食べ物の絵カードを１セットずつ渡す]	板書、絵カード すきです　きらいです 絵カード （S と T の人数分を用意） ・お弁当箱 ・おかずや食べ物 ※実物の子ども用のお弁当箱を使ってもいい。

	練習　ア. Tが言った食べ物のカードをお弁当箱に貼っていく。食べ物の名前を言いながら貼る。 イ. Sが食べ物のカードを自由に選んで自分のお弁当箱に貼る。完成したお弁当をみんなに発表する。	
③15分 **箸の持ち方**	T：これは何ですか。 S：箸です。 T：そうです。箸でお弁当を食べます。 箸を持ちます。 [Tが箸の持ち方の手順を見せる。Sも練習する]	箸の使い方の説明資料
	練習　ア. 箸で消しゴムをつかむ。Tが見本を見せる。 イ. 制限時間1分で、皿から別の皿へ、消しゴムを箸で移すゲームをする。	・皿　・子ども用の箸 ・消しゴム（または、軽くて丸いポンポンなど、つかみやすいもの）
その他の活動例	・食べ物の一部を拡大した画像を見せ、どんな食べ物か当てる。 ・食べ物カードを使って神経衰弱を行う。文字が十分に読めるようなら、食べ物カードと名前のカードを合わせるゲームをする。 ・実際に簡単なお弁当を用意して、箸で食べる。	
宿題の例	・家庭で保護者と一緒にお弁当を作る。 ・家庭で箸の持ち方を練習する。箸でご飯を食べてみる。	
備考	・食べ物の名前は、地域や子どもの日本語レベルに応じて変えたり、追加したりする。 ・プレスクールの課外活動として、保護者も交えた遠足体験や、お弁当パーティを企画してもよい。参加者各国のお弁当を持ち寄って紹介し合うなどしてもよい。	
参考教材	「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p193, 活動例 25＜カラフルポンポン＞ 「親と子のおはなしハンドブック」(2015), MIEF	
保護者の方へ伝えること	・お弁当は栄養のバランスを考えて、食べられる量だけを入れるようにする。 ・学校によって、遠足へ持って行っていい食べ物、調理法（特に腐敗しやすい夏は要注意）等の決まりがあるので、事前に確認する。 ・必ず日本式のお弁当でなければいけないわけではない。自国の食文化も大事にする。 ・給食では箸を使うので、家庭でも箸の使い方に慣れるように練習する。 ・遠足には保護者やペットは同行できない。	